

堆肥を一般配布しています

琵琶湖開発総合管理所では、管理している湖岸堤の除草を行っています。湖南管理所では、資源リサイクル・環境保全の観点から、堤防の草を原料とした堆肥を作り、一般配布しています。

～刈草堆肥ができるまで～

① 除草・集草・仕込み
水と石灰窒素を加え攪拌します

② 積上げ

③ 1次発酵
2～3ヶ月発酵させます

④ 1回目切返し
攪拌・粉碎し、均一にします

⑤ 2次発酵
2～3ヶ月発酵させます

⑥ 2回目切返し
攪拌・粉碎し、均一にします

⑦ 仕上げ発酵
2ヶ月程度発酵させます

⑧ 完成
完成(①～⑧)までには6～8ヶ月要します

完成した堆肥は取りに来ていただける方に通年で配布しています。無くなり次第終了となりますが、ご入り用の方は湖南管理所までお問い合わせください。
TEL 077-568-4102 (受付：平日のみ 8:45～16:30)

堆肥は土作りの補助材で、土壌改良に役立ちます。おいしい野菜や綺麗な花を育ててみませんか？

びわこつうしん

琵琶湖の管理情報や地域情報を紹介する情報誌です
発行 独立行政法人水資源機構 琵琶湖開発総合管理所
2018年 春号 (通巻 第27号)

米原市・醒井を楽しもう!

米原市醒井は、古代から交通の要衝(ようしょう)として栄え、地名はその昔、日本武尊(やまとたけるのみこと)が伊吹山の神との戦いで負った傷を癒したと言われる「居醒の清水(いさめのしみず)」の伝説に由来しています。また、醒井峡谷(さめがいきょうこく)は、春は桜、初夏は新緑、秋は紅葉など四季それぞれに豊かな自然を感じることもできます。歴史と自然が融合した美しい町並み、米原市醒井をぜひ訪れてみてはいかがでしょうか。



醒井宿

醒井は地蔵川(じぞうがわ)に沿って形成された中山道61番目の宿場町です。清らかな水が流れていることで知られており、地蔵川の流れに沿って、今も風情ある町並みが続いています。醒井宿には全国でも珍しく、「問屋場(といやば)※1」が昔のままの姿で残っており、往時のにぎわいを伝えています。(アクセス：JR醒ヶ井駅から徒歩10分) ※1 問屋場：街道の宿場で、宿場の通行人に人馬を提供したり、荷物の積替えの事務などを行っていた施設



【資料館として残る醒井宿(問屋場)】

地蔵川(梅花藻)



地蔵川は、「居醒の清水」などから湧き出る清水によって出来た川で、大変珍しい水中花「梅花藻」で有名です。水温は年間を通じて14℃前後と安定しており、貴重な淡水魚「ハリヨ※2」も生息しています。梅花藻はキンポウゲ科の沈水植物で、梅の花に似た白い小さな花を5月中旬～8月下旬まで咲かせます。梅花藻は、年間を通して水温14℃前後の清流にしか育たず、全国でも生育場所が限られています。(アクセス：JR醒ヶ井駅から徒歩5分) ※2 ハリヨ：通年20℃以下の清流に暮らす淡水魚。滋賀県のレッド・データブックで絶滅危惧種に選定されている。

【梅花藻】<写真提供>(公社)びわこビジターズビューロー

滋賀県醒井養鱒場

醒井養鱒場は、明治11年に設立された日本で最も歴史のあるマス類の増養殖施設の一つです。霊仙山(りょうぜんざん)のふもとから湧き出す清流をたたえた池に大小様々なニジマス、イワナ、ビワマスなどが泳いでいます。主に滋賀県内の水産増養殖業の振興と河川におけるマス類の資源維持を図るため、ニジマス、イワナ、ビワマスなどの種卵種苗の生産を行っています。



【飼育されているニジマス】

また、県内の養殖場や河川漁業協同組合に養殖技術や放流技術等の普及指導を行うとともに、場内にある「さかな学習館」では主に小中学生を対象にした「夏休み親子さかな教室」などを開催し、魚や養殖事業に対する知識の普及にも努めています。そして、琵琶湖の特産種であるビワマスやイワナなどの在来マス類を活用し、特色ある滋賀の内水面漁業・養殖業の活性化を目指して調査研究を行っています。広い場内は飼育池、資料館のほか料理店・売店やマス釣り池があり、家族連れで楽しむことができます。[入場料：大人500円 大学生・高校生300円 子供(中学生以下)無料] (アクセス：北陸自動車道 米原I.C.から約10分)

ストップ! 不法投棄

琵琶湖周辺では不法投棄があとを絶ちません。生態系への悪影響や水質悪化を防ぎ琵琶湖の豊かな自然を守りましょう。



不法投棄は犯罪です!

ゴミや産業廃棄物を投棄している現場を見かけたら警察又は下記にご連絡ください
水資源機構 琵琶湖開発総合管理所
TEL 077-574-0680

! 厳しい罰則!

【懲役】
5年以下
【罰金】
法人：最大3億円
個人：最大1千万円



琵琶湖周辺の「建築物」めぐり

琵琶湖周辺の魅力的な建築物を集めてみました。春を迎え穏やかな気候となりましたので、湖国の素晴らしい文化を探して、これらの建築物を訪れてみてはいかがでしょうか？
(入場料等が必要となるものがありますので、ご注意ください。)



①旧今津郵便局 (高島市今津町)

高島市今津町のヴォーリズ通り沿いにある旧今津郵便局は、ヴォーリズ(※⑨参照)の設計で、昭和11年(1936年)に建てられました。木造2階建・切妻造・瓦葺の建物で、正面中央の玄関がやや突出し、スクラッチタイルでアーチ形に装飾されたエントランスがひと際目を引きまします。ヴォーリズ建築らしい和洋折衷様式が取り入れられています。昭和53年(1978年)まで今津郵便局として使用されました。



【アクセス】JR近江今津駅から徒歩約10分

②滋賀県庁 (大津市京町)

現在の滋賀県庁本館は、明治21年(1888年)に建設された旧県庁舎本館を取り壊し、昭和14年(1939年)5月に竣工した建物です。鉄筋コンクリートの4階建てで、中央には塔屋がそびえ、左右に事務室、正面玄関には大きく車寄せが配置されています。その容姿は、ルネサンス様式らしい格調高い存在感を放っており、滋賀県を代表する近代建築の一つとされています。また、平成26年(2014年)12月には国の登録有形文化財へ登録されました。現役の都道府県庁として使われている建物で国の登録有形文化財へ登録されたのは、全国で5例目です。



【アクセス】JR大津駅から徒歩5分、京阪電気鉄道 島ノ関駅から徒歩5分

③草津宿本陣 (草津市草津)

東海道と中山道が分岐・合流する交通の要衝の草津宿には2軒の本陣があり、大名や公家などが宿泊したり、休憩をとる施設としての役割を果たしていました。そのうちの1軒が現存する田中七左衛門の本陣で、寛永12年(1635年)から明治3年(1870年)に廃止されるまで本陣として使用されました。約4,700㎡という広大な敷地に、建物面積約1,700㎡、部屋数39余りを数え、本陣の中でも最大級の規模を誇りました。建物は書院造りで、江戸時代の旧姿をよくとどめているとして、昭和24年(1949年)に国の史跡に指定されました。



【アクセス】JR草津駅から徒歩約10分

④佐川美術館 (守山市水保町)

平成10年(1998年)、佐川急便創立40周年を記念して開館した佐川美術館は、琵琶湖と比叡山を望む美しい環境に位置しています。敷地は大部分が水庭(人工池)になっており、水の上に浮かぶように見える2棟の切妻屋根の展示館は、そのデザインが高く評価され、グッドデザイン賞(施設部門)1998(公益財団法人日本デザイン協会主催)を受賞しました。



【アクセス】JR守山駅から近江鉄道バスで約30分

⑤御上神社本殿 (野洲市三上)

「近江富士」の別名もある三上山を神体山として祀っており、建立年代は明らかではありませんが、様式手法から見て鎌倉時代後期の建立と推定されています。昭和27年(1952年)に国宝に指定されており、入母屋造(いりもやづくり)、漆喰壁および連子(れんじ)窓など仏堂的要素が融合した神社建築で、簡素ですが優れた形をなしています。母屋、側廻りとも隅柱(すみばしら)上に舟肘木(ふなひじき)をのせ、向拝(こうはい)の臺股(かえるまた)は内部彫刻を失っていますが、柱上連三斗(ちゅうじょうつれみつど)の組物と共に力強く、手挟みは珍しい形をしています。



【アクセス】JR野洲駅から滋賀バスで7分、「御上神社前」下車徒歩で5分

⑦百済寺仁王門 (東近江市百済寺町)

百済寺は、湖東三山のひとつで推古天皇の御代に聖徳太子の御願により創建された古刹(こさつ)です。明応7年(1498年)・文亀3年(1503年)に火災に遭い昔からの諸堂を消失、更に信長の兵火に遭い全山灰燼(かいじん)に帰しましたが、江戸時代に本格的に復興が進み慶安3年(1650年)には本堂、仁王門(写真)が竣工しました。門の両脇に立つ草鞋(わらじ)が特徴的で、昔は50cm程のサイズでしたが、江戸時代中頃から参拝客が健脚・長寿の「願」をかけるようになり、「大きいほどご利益が大きい」ということで、どんどん大型になって今では3m程になりました。地元のお年寄りの方々により、約10年毎に新調されます。



【アクセス】近江鉄道バス「百済寺本町」から1km

⑥白雲館 (近江八幡市為心町元)

白雲館(旧八幡東小学校)は、明治10年(1877年)に建設された学校建築物です。八幡商人の熱意と区民の協力により、西洋建築の様式と日本の伝統技術を取り入れて建築されました。一見すると洋風建築であることから、近江八幡を中心に活躍したヴォーリズ(※⑨参照)の設計と想像する人も少なくありませんが、彼が来日する約30年も前に、地元の大工によって建てられた擬洋風建築です。この歴史的文化遺産を後世に受け継ぐため、近江八幡市が平成6年に学校開設当時の姿に復元しました。



【アクセス】JR近江八幡駅から徒歩30分

⑩旧長浜駅舎 (長浜鉄道スクエア内)(長浜市北船町)

明治維新後の明治2年(1869年)、政府は文明開化を進めるため鉄道を導入することとしました。鉄道建設にあたり、東京から関ヶ原を経由して日本海に抜けるルートと、琵琶湖の連絡船を利用して大津から京都・神戸に至るルートの要の地として長浜を位置付け、明治15年(1882年)、長浜～敦賀間の部分開通にあわせて旧長浜駅が建設されました。建設当時は連絡駅として大変賑わいましたが、明治22年(1889年)、東海道本線の全通に伴って北陸本線の起点が米原駅に移されたことや、更には明治35年(1902年)、長浜駅が現在地に移動したことにより、旧長浜駅は機能を失いました。今では、現存する日本最古の駅舎として、また、文明開化を伝えるイギリス式の珍しい建物として一般公開されています。



【アクセス】JR長浜駅から徒歩3分

⑨旧醒井郵便局局舎 (醒井宿資料館)(米原市醒井)

アメリカ出身の建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリズ(1880年～1964年)が設計に関わったとされる旧醒井郵便局は、大正4年(1915年)に創建されました。創建当初、木造2階建てだった擬洋風建築の建物は、昭和9年(1934年)には外壁をモルタル張りにするなどの改修が行われ、昭和48年(1973年)に別の地へ局舎が移転されるまで醒井郵便局として使用されました。平成10年(1998年)、国の登録有形文化財に登録され、現在は醒井宿資料館として利用されています。



【アクセス】JR醒ヶ井駅から徒歩3分

⑧近江鉄道 鳥居本駅 (彦根市鳥居本町)

昭和6年(1931年)に近江鉄道彦根、米原間が開業し、同時に鳥居本駅舎も建設されました。その後建て替えられていますが、レトロなデザインの洋風建築です。マンサードと呼ばれる急斜面の腰折れ屋根が大きな特徴です。平成8年(1996年)には、この駅舎で184時間におよぶ世界最長コンサートが開催され、ギネスブックに登録されました。



【アクセス】近江鉄道鳥居本駅

琵琶湖の明日を見つめて 独立行政法人水資源機構 琵琶湖開発総合管理所

〒520-0243 滋賀県大津市堅田2丁目1-10
TEL.077-574-0680 FAX.077-574-1739

湖北管理所 〒521-0011 滋賀県米原市中多良1-2
TEL.0749-52-5160
湖西管理所 〒520-1623 滋賀県高島市今津町住吉1-3-4
TEL.0740-22-1500
湖南管理所 〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091-58
TEL.077-568-4102

<http://www.water.go.jp/kansai/biwako/>

琵琶湖管理

検索

